



CEReS

Newsletter No. 138

Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University, Japan

千葉大学環境リモートセンシング研究センター ニュースレター 2017年5月
発行：環境リモートセンシング研究センター
(本号の編集担当：入江 仁士)
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832 Fax: 043-290-3857
URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/>

■■■ 安岡センター長、ニューヨーク国連本部で講演 ■■■

～ STI Forum 2017 at UNHQ in New York ～

去る5月15、16日にニューヨークの国連本部で開催された STI Forum (Multi-stakeholders Forum on Science, Technology and Innovation for the SDGs) に CEReS センター長 安岡が政府代表団の一員として出席いたしました。本フォーラムは「持続可能な開発目標(SDGs)」の実施に向けて、科学技分野の専門家がいかに貢献していくかについて検討することを目的としています。SDGs 実現のための関連する科学技術の展開、普及・促進と、多様なステークホルダーのネットワーク構築、交流の牽引が開催主旨とされています。

日本からは外務省、文科省、国際協力機構 (JICA)、科学技術振興機構 (JST) を中心とした機関のメンバーによる政府代表団が派遣されました。Forum のサイドイベントの一つは、日本政府と世界銀行の共催によるセッションで、日本の JICA と JST が共同で発展途上の国々の社会的課題を解決することを目的とした国際連携プログラム SATREPS (地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム) を紹介し、今後の展開を考えるものでした。

サイドイベントでは、オープニングで国際連合日本政府代表部別所浩郎特命全権大使を含む3人の大使の開会挨拶があり、続いて安岡が“From SATREPS toward the SDGs”と題して基調講演を行いました。その後の講演、パネル討論において日本の産業界の試みと海外の試みについての紹介があり、活発な意見交換が行われました。地球規模課題の解決の糸口を日本の科学技術力に見出そうとする期待感を強く感じました。



さて、今回の Forum 出席で印象的だったのは、大学生が数多く招待されていて、コロンビア大学や MIT に在籍するアジアの学生たちが、本会議においてもサイドイベントにおいても、自分の意見を物怖じせず堂々と述べていたことです。その姿に、頼もしさを覚えました。国際会議での発表では、日本人学生にとっては英語という言語の壁が必ず立ちまわりますが、それであっても自分に自信を持って臨んでもらいたいという思いを強く抱きました。そのためにはしっかりとした学問的基礎と広い視野を身につける努力が必要である、ということも付け加えておきたいと思います。

センター長 安岡 善文

■■ ISRS2017、名古屋大学にて開催 ■■

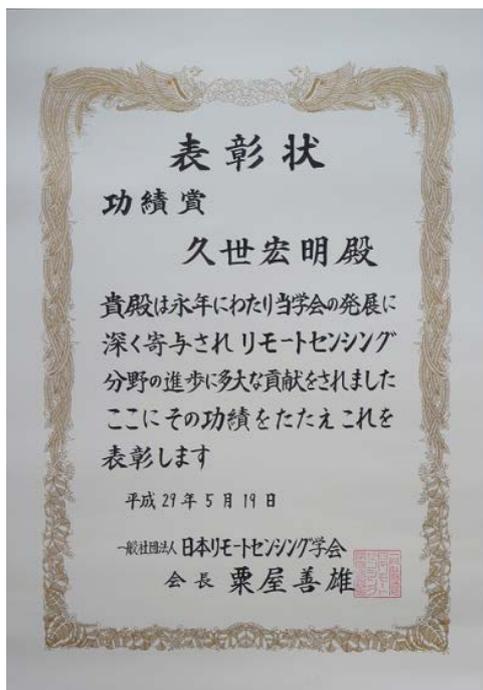
～ 久世宏明教授、日本リモートセンシング学会 (RSSJ) より功績賞 ～

5月17～19日に、ISRS2017(第62回(平成29年度春季)学術講演会を兼ねる)が名古屋大学の豊田講堂と野依記念ホールを会場として開催されました。ISRS(International Symposium on Remote Sensing)は、韓国、日本、台湾の次の4つの学会および団体が共同で毎年開催している国際学会です。

- ・ Remote Sensing Society of Japan (RSSJ)
- ・ Korean Society of Remote Sensing (KSRS)
- ・ Chinese (Taipei) Society of Photogrammetry and Remote Sensing (CSPRS)
- ・ Standing Committee of Environmental Monitoring from Space of East Asia (EMSEA)

今回、ISRS2017(於：幕張セミナーハウス)以来の日本開催となり、リモートセンシングに関連する多くの日本企業からも出展があり、盛大に執り行われました。

最終日の19日に行われた日本リモートセンシング学会総会で、当センターの久世宏明教授が功績賞を受賞しました。これは、2014～2016年の日本リモートセンシング学会第16代会長としての学会への貢献が評価されたものです。日本リモートセンシング学会は1981年に設立され、過去には前センター長の建石隆太郎名誉教授が第13代会長を、また、安岡善文センター長が第10代会長を務めています。



賞状と記念のクリスタルの盾です。永年の活躍は計り知れないものです。

また、このシンポジウムでは Student Award というスポンサーによる学生優秀論文の表彰制度が設けられており、CEReS から下記の 2 人の学生の発表が Student Award を受賞しました。

■ 泉 佑太 (博士課程前期 2 年 : ヨサファット研究室)

論文題目 : Ground-based Circularly Polarized SAR Capability to a Rice Phenology Monitoring

■ Jamrud Aminuddin (博士課程後期 3 年 : 久世研究室)

論文題目 : Development of LED-DOAS system for observing aerosol extinction near the ground level

今後の活躍が期待されます。



賞状を受ける泉佑太さん



握手を交わす Aminuddin さん



■ CEReS 国際シンポジウム「MOLI 国際ワークショップ」開催 ■

～ International Workshop on Vegetation Lidar and Application from Space ～ (and the 25th CEReS International Symposium)

5月26日、本学松韻会館にて第2回 International Workshop on Vegetation Lidar and Application from Space が宇宙航空研究開発機構(JAXA)主催、CEReS 共催（「CEReS 国際シンポジウム」として開催）により開催されました。昨年（2016年）1月に京都大学にて開催された第1回に引き続き、国際宇宙ステーション(ISS)に搭載予定の JAXA の植生ライダーMOLI (Multi-footprint Observation Lidar and Imager)に関する話題が中心となりました。

東北工業大学の浅井和弘名誉教授の挨拶およびワークショップの開催趣旨から始まり、招待講演として安岡センター長による Future Earth への千葉大学の取り組み、久世教授による CEReS におけるライダー関連の研究活動が紹介され、その後 MOLI の Status、航空機実験の成果の発表が JAXA からなされました。また、米国 NASA で計画している植生ライダーGEDI(Global Ecosystem Dynamics Investigation)について、メリーランド大学の Steven Hancock 教授から紹介がありました。さらに、MOLI データがもたらす樹冠高・バイオマス情報への期待について、様々な分野の研究者から発表がありました。炭素循環モデリングへの利用について講演された CEReS の市井教授もその一人です。ワークショップは招待講演者を含め 45 名の参加者がありました。



挨拶をされる浅井和弘名誉教授

CEReS では MOLI のサイエンスチームに本多准教授と私が参加しており、JAXA が実施したラージフットプリントライダー（情報通信開発機構が開発）による航空機実験で得られた結果を検証するための現地観測データの取得および解析を昨年度受託研究として実施しました。今回のワークショップではその地上検証データ取得に関する活動の報告もなされました。

(梶原康司)



平成 29 年度学生と教員の対面式（新人歓迎会）開催

5月11日に毎年恒例の CEReS 教職員と学生の顔合わせ会を行いました。今年度は、前年に比べて学生数（含む外国人留学生）は若干減少しました。やはり少子化の影響でしょうか。今年も CEReS 講義室での開催でしたが、学生主導による準備のおかげで、テーブルセッティングに工夫を凝らすなか、留学生の手料理で本場の味を楽しめたりと、盛りだくさんの内容で、充実した交流会となりました。他の研究室の教員・学生と接する機会が少ないなか、貴重な年中行事となっています。

また、この春、大学院融合理工学府にリモートセンシングコースが誕生しました。「宇宙から地球を見る」という魅力ある研究をもっと多くの学生に知ってもらい、より興味を持ってもらいたいと、近藤昭彦コース長をはじめ、社会に送り出す際にお手伝いすべく就職担当教員も活動を始めています。

地球環境を知り、解決すべき課題を見つけ、リモートセンシング技術を使い、その成果を社会に還元する、という研究に参加してみませんか！



◆◆◆ 2017 年度の CEReS のスタッフ及び学生現況 ◆◆◆

今年度の CEReS のスタッフ及び学生総数は以下の通りです。（ ）は外国人内数となります。

専任 教員	客員 教員	特任 教員	特任 研究員	グ ラ ン ド フ ェ ロ ー	(研究 機 関 研 究 員 講 師)	非 常 勤 職 員	研 究 生	D 3	D 2	D 1	M 2	M 1	B 4	総 計
10 (1)	3 (0)	8 (4)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	16 (0)	1 (1)	12 (12)	7 (5)	8 (7)	13 (4)	10 (1)	16 (0)	
41 (4)							67 (30)							108 (34)

() 内の数字は外国人の人数

平成 29 年 5 月 1 日現在

